

塩竈市子ども・子育て会議（令和2年度第3回）議事概要 報告書

1. 会議名	塩竈市子ども・子育て会議（令和2年度第3回）
2. 日時	令和3年3月10日（水） 18:30～19:50
3. 場所	塩竈市市民交流センター会議室（壱番館5階）
4. 出席者	<子ども・子育て会議委員> 12名 <塩竈市> 5名 子育て支援課長、子育て支援課職員3名、学校教育課職員1名

<議事概要>

1. 開 会 司会（子育て支援課長補佐）
2. 挨拶 課長から
3. 議 事 議事前に資料確認後議事

(1) 報告事項

- ① 令和3年度保育所（園）等及び放課後児童クラブ（仲よしクラブ）の取組等について
・資料1-1、資料1-2を使用し、保育所等の入所状況、放課後児童クラブの取組等について報告した。
- ② 子育て世代包括支援センターの整備及び組織改編について
・資料2を使用し、子育て世代包括支援センターの整備及び組織改編について報告した。
- ③ 子どもの生活に関する実態調査結果報告について
・資料3、資料3-1、資料3-2を使用し、子どもの生活に関する実態調査の調査結果について報告した。
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について
・資料4を使用し、新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について報告した。

5. その他 ・次回会議日程は後日連絡

<主なご意見等の内容>

◆報告事項

- ①令和3年度保育所（園）等及び放課後児童クラブ（仲よしクラブ）の取組等について
- ②子育て世代包括支援センターの整備及び組織改編について
- ③子どもの生活に関する実態調査結果報告について
- ④新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について

【議長】では今の報告を受けて委員の先生方から質問・ご意見があれば頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】3つ目の子どもの生活に関する実態調査結果報告について伺いたいのですけれども。まず1点目は、この調査の対象が小学5年生と中学2年生とその保護者というふうになっていますけど、小学5年生と中学2年生に限定した理由っていうのがもしあるのであれば教えて頂きたい。2点目は調査の方法についてなんですけれども、児童と保護者のデータはマッチングできるような形でデータを収集したのかなというのを結果を見ながら推測したんですけれども、その辺りの、児童の回答の中にも貧困世帯と非貧困世帯という区分ができてきているので、その辺のデータのとり方がどのようになっていたのかについて教えて頂きたいです。それから3つ目は、対象の中に教頭先生とか、所長先生とか、スクールソーシャルワーカー、それから関係機関の方々も回答しているというふうに書かれていますけれども、その方たちは、この調査票の保護者向け調査票の回答をしたという理解でよろしいでしょうか。調査票が2種類しか出てきていないので、この方々達はどの立場でどのようなアンケートに答えたのかなというのが素朴にわからなかったのです。以上3点について教えていただければと思います。

【事務局】まず1点目について、なぜ小学5年生と中学2年生かというご質問ですが、調査の対象としましては、質問の趣旨を理解していただくということで、なるべく高学年のお子さんということで考えておりました。ただ、小6と中3ですと受験が関わってくるお子さんもいらっしゃいますので、そういったお子さんの負担になりませんように小学5年生と中学2年生を選んでおります。近隣の自治体でも小学5年生と中学2年生を選んでいる自治体が多いようです。2点目につきましては、保護者の調査票とお子さんの調査票がマッチングされているかということだったのですが、学校を通じて配布した分につきましては保護者の調査票とお子さんの調査票をマッチングさせております。どうやってマッチングさせたかといいますと、資料3-1、3-2をご覧くださいますと、表紙をご覧くださいたいのですが、下部の提出期限の隣にゆるキャラが印刷されているんですね。これがお一人ずつ配った世帯によってゆるキャラの組み合わせが違っております。塩竈市はゆるキャラがたくさんおまして11体くらいいるんですね。それでいろんなペアを作りまして、お子さんと保護者の方がばらばらに調査票を出されてもマッチングできるようにしております。なぜそのような複雑なやり方をしたかといいますと、他の自治体では数字を付番してマッチングするやり方が主流ではあるんですが、そういったやり方ですと、気にされるご家庭ですとなんで番号が振ってるのかとか、あえて番号を切り取ってだされる方もいるという話を聞きましたので、なる

べくそういった保護者の方の苦情やクレームなどに繋がりませんように今回ゆるキャラを使ってマッチングさせていただいておりました。3 点目のご質問ですが、対象者というところで確かに教頭先生と所長先生とスクールソーシャルワーカーの方、関係団体の方など質問をさせていただいておりますが、今回お配りしなかったのですが、保護者向け調査票とお子さん向け調査票とは別に学校、保育所、スクールソーシャルワーカー向けの調査票と関係団体向けの調査票でそれぞれ用意はしておりました。今回の概要版の方にはそちらまで反映できませんでしたので、今月中に完成版の報告書ができあがりますので、そちらに反映させていただきたいと思っておりました。

【議長】 今説明頂いたので合点が行ったかなと思います。学校の先生や保育所の先生や関係機関の方が答えた分はどこへ行ったのか、まさか保護者の中に入っているわけない、自分の家の子どものことを答えるわけにはいきませんので、と思っていたので、概略版だったのでそこは割愛されているということだとすると、今回の分析の対象となった集団についてのプロフィールが欲しいですね。だから、そこにこれが入っていると誤解を生むと、そんなことを思った次第です。それから小5と中2をメインで対象にしたのはわかったんですけど、一方で郵送調査の親のみはどの対象だったのでしょうか。

【事務局】 無作為抽出の0歳～18歳までの対象者の方ですが、こちらはお子さんの年齢に限らずに幅広い意見を頂きたいと思ひまして、お子さんがいらっしゃる世帯を抽出しましてアンケートをお配りしております。こちらはお子さんは対象にはしませんでしたので、保護者の意見だけ頂いてこちらの調査結果には反映されております。

【議長】 ということは異なる2つのサンプルを取ったということになりますよね。なので本来であれば、それぞれが別々に最初は出てきて、それで、実施の方法によって差がないんだということがあって、それでその先で一緒になっているというスタイルが一番いいのかなと思ったんですけど。要は方法によって結果が違うということだと、結局そこがオチだったということだと違うのかなと思ったので。しかも0歳から取ってますよね。ですので小学校、中学校という分け方をずいぶんされていたのでそうすると就学前のお子さんのデータはどこに行っちゃったのかと、いくつかそういう疑問を思いました。他にいかがですか。別にアンケートにこだわらず。

【委員】 私も実態調査のことなんですけど、5番で相対的貧困層の定義というところがあって、本調査では132.5万円、この額というのは県とか自治体で変わるものなのかなと推定するんですけど、近隣2市3町とかと比べてどうなのかということと、全国的な貧困線の金額というのはどうなのかなというところが知りたいと思ひました。

【事務局】 今頂いたご質問ですが、他市町村の貧困線の金額というところだったのですが、他市町村でも同じように貧困調査を行っておりますが、実施している年度が違いますので単純な比較はできないのですが、金額までは把握はしていなかったのですが、貧困世帯の割合としましては、仙台市の貧困世帯で11.8%という割合にな

っております。多賀城市では5%となっております。全国的に見ますと毎年国民生活基礎調査という調査を行っておりますのでそこで貧困線を出しております。直近の数字ですと、122万円だったかなと思っております。以上です。

【議長】 そうすると今の回答は線をどこで引くかっていうのはその年によって違ったりするけれども、調査の実施年によって揺らぐんだけれども、仙台市の直近の調査と比べてそんなに大きい差はない、というぐらいのところですかね。多賀城と比べると仙台や塩竈はちょっと多いのかなという感じに受け止めたのですが、よろしいですか、そんな感じで。

【議長】 他にいかがですか。私からなんですけど。多くのグラフの示し方が貧困世帯対非貧困世帯という軸と小学生と中学生の比較ですよね。ところがもちろんサンプルが都度変わるんですけど、回答者数がですね。3 ページで貧困世帯は 142 世帯、非貧困世帯は 975 世帯とかということになっていて、進んでいくとこれが小中学生の割合でとなるんですけど、結局は非貧困世帯の方が多いので、小学校、中学校の分け方でみると貧困世帯のニーズが埋まるというか、出てこなくなるというか。非貧困世帯のニーズが前に出てくるというような気がしていて、だからサンプルの数がそんなに多くない、貧困世帯の回答者の数がそんなに多くないからなんですけど、例えばそれを小学校と中学校で分けて学校種×貧困、非貧困にしてみるともうちょっと貧困世帯のいろんなニーズがでてこないかなというふうに思いました。消えちゃうんじゃないかと思って。小学校、中学校という軸でとってしまうと。そんなところを気にしています。これは感想です。

例えば 7 ページ目のところ、貧困世帯は学用品費のところがすごくニーズが高くて、非貧困世帯は学校外の教育費のニーズが高いですけど、要は貧困世帯のお子さんは塾に行けてないから困り感がそもそもないという数値かもしれないし、そういうところって数字だけでは判断できないところもあるなと思っていて、決して希望がないではなくてそもそも行けてないということも考えなくてはいけないのかなと。ですからそれが小学生、中学生という軸でみると非貧困世帯 40.1%は反映した形で、ここで 32.7%と 50.2%というふうにててくるんだらうな、つまり消えちゃうんですね、学用品費の方がですね。そんな印象を持ちました。なので分けて見られるといいのかなと、次のステップとしてですね、そんな印象です。概要版ということだったので、他の対象の方々の結果とかも最終的にはでてくるということでいいんですよ。

【事務局】 おっしゃる通りです。今完成版を取りまとめておりましたので、おそらく 3 月中には完成するかと思いますので、完成しましたら塩竈市のホームページに掲載するのと、次回子ども・子育て会議の場で報告書をお配りできればいいなと思っております。

【議長】 はい。ということで完成版を待っていて次回この会議でもまた完成版について委員の先生からのご意見やご感想をお伺いするというところでよろしいですかね。他にいかがですか。

【議長】 引き続き私からなんですけど、資料 1-1 の入所調整の結果についてなんですけど、待機児童数の推移はいかがですか。今年 11 名ということで先ほどご報告いただい

たんですけ

【事務局】令和2年4月1日の待機児童の数ですけど、11人になります。平成31年4月1日が2人、その前が平成30年が18人というふうになっていて、平成29年が3人、平成28年以前は待機児童がいませんでした。平成29年度から待機児童が発生しているという状況です。以上です。

【議長】はい、ありがとうございます。この辺の数字今お伺いして平成28年度から前はしばらく0だったとお伺いして、そうするとここに出てきている保育園さん、こども園さんの存在意義が改めて、前回の公立保育所を少しずつ減らしていったという議論をしたんですけど、改めてクローズアップされてくるのかなと。単純な数だけではなくそれぞれ公立、私立が持っている役割というのがあるんじゃないかなというふうに考えて。とすると年々によって待機児童が多かったり少なかったりするんでしょうけど、それなりのニーズというものが依然根本だけの定員をちゃんと振り分けていても待機児童がおられるという、それなりに両方ともニーズがあるんだということなのかなと思ったものですから。ありがとうございます。他に委員の先生方からいかがでしょうか。

【議長】資料2のところで通称にこサポ、私も入ってくる時に外からここが予定のスペースなんだと貼ってあったのでわかって、そこでのお仕事が開示されて市民の皆様が利用している姿を拝見できるのを楽しみにしておりますけど。にこサポとこころんの役割分担というのがまだわからないところがあって、教えて頂けるといいかなと。母子保健型と基本型って書いてあるんですけど、わかりやすいところで言うとこんな感じの役割分担なんだというのを教えて頂けると。

【事務局】簡単に言いますと、にこサポの方は妊娠期から出生して間もなくの頃の相談等の業務を主に行うところかと思っております。こころんの方につきましては、子育て期で子どもと一緒に遊びながらお母さんたちが触れ合ってコミュニティを作る場所になるのかなと思います。それで、両方の施設とも連携して切れ目のない支援を行っていきたいと考えております。

【議長】はい、ありがとうございます。とてもシンプルに教えて頂いて理解できました。他に委員の先生方からいかがでしょうか。

では、資料も膨大だったので、もちろん後ほどお気づきの点等あればその都度事務局の方に聞いていただいてよろしいですよ、今ではなくて。もし他にないようでしたら、その他として何か報告事項以外のところで委員の皆様からここで発言しておきたいということがあれば承りますがいかがですか。はい、お願いします。

【委員】中高生の居場所についてなんですが、最近中学生が部活がないということでほぼ毎日児童館に来ております。中学生は大変お行儀が良くて、例えば、密になるので児童館の中は乳幼児3組、小中学生は5人までと入口に書いていて、それできちんと挨拶をして検温、消毒をして外で過ごすことが多いのですが、パワーが有り余っていて、外でボール遊びをしてもどうしても館庭が狭いのでボールが外に出ていく。気を付けて遊ぼうねと声がけをしているんですが、近隣住民から中学生がうるさいと、声も大きいし体も大きいしボールをフェンスに当てた時

の音が大変うるさいということで初めてこういう苦情が来まして。子育て支援課と相談させてもらって今は禁止というか控えて頂いているんです。でも中学生に説明したところ、私たちにすごい嫌な思いをさせてごめんねと中学生が謝って、そしてさらに気を付けて遊ぶから、と言ってもまたすぐフェンスに当てるんです。まあそれが中学生なのかなと思うんです。でも何とか彼らの居場所、体を動かす、発散する場所、例えば中学校や小学校の校庭を解放してくれるとかそういうことはできないものなのかなと。市をあげて彼らがもうちょっと動いて発散できる場所を作ってあげられないものなのかなということを今すごく悩んでおります。児童館が大変狭いので、夕方になると最近乳幼児さんたちが2組~3組来たら本当にいっぱいいっぱい、小学生が来て、中学生が来て、彼らは彼らで常連の子たちは住み分けをしっかりとしくて、密にならないように気を付けてくれているんです。そういうような彼らを見ると切なくなってしまって、何かいい方法がないものなのか、皆さんにご意見やお知恵を頂けるといいのかなと考えておりました。よろしくをお願いします。

【議長】 貴重な情報をいただきました。ありがとうございます。ちなみに来られる中学生というのは、かつて放課後児童クラブという児童館を使っていた子たちですか。

【委員】 塩竈市の児童館は、昔は児童館の中に児童クラブもあったんですけど、もうここ何年も小学校の中に児童クラブがあるので、自由来館として来ている子どもたちです。小学校の時から自由来館として遊びに来たり、一時は来なくなったりという子たちもいますが。だいたい中学生が多いですけど、一中の子が来たりとかそういう感じです。学年は何年生ということはないです。特に3年生が多いときもあるし1年生、2年生、3年生全体で来ることもあります。コロナ休業中には小学生から乳幼児さん、私たちも含めて館庭に大きな山を作ってみんなで山崩しをしたりとか、すごくみんなで過ごすということができている子どもたちなので、その子たちの居場所をなんとかしてあげたいと思います。

【議長】 ありがとうございます。今なんでそういった質問をさせていただいたかという、客観的に見れば中学生たちにとって、先生たちが彼らの小学生の時から提供してきたサービスがサービスだけではなくて、彼らにとっては先生方が本当の意味での居場所になっていたということなんですね。その証として、本来は中学生になったら来ないんだけど、コロナのこともあって先生方の居心地の良さとか、そういう場所でもあるんだろうなど。他にいくところがないからというのももちろんあるかもしれないですけど、だからそれを直ちにはがしてしまうのではなくて、何かいい方法が先生方との関係も出つつそういったものがあればいいなと話を聞いていて考えたんですけど。なかなかいい知恵が出ないんですけど。どうしましょうかね。お話としては受け止めて、事務局の方でも少し市として何かできることがないのかということについて知恵を絞っていただくのがいいのか、あるいは校長会代表の校長がいらっしゃってますけど、学校の方とも連携して、まずは情報のシェアから、そういう子たちにニーズがあるんだっていうことですよ。まずそこからですけど。私も初めてそのことを知りましたので、校長会の

方でも話題にさせていただきつつということなのかなと思いますが、事務局としてはいかがでしょうか。

【事務局】 ご意見いただきましたので、内部の方で検討させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【議長】 校長会で学校の先生方ともシェアしていただいて、お願いできればと思います。

【委員】 子どもたちがなかなか遊べる場所が無い、居場所が無いというのは、よくよく分かるつもりではおります。ただですね、今現実として、休みの時、それからましてコロナ禍で臨時休業している時は、そこに子どもを集めるということだけで感染のリスクが増えてしまうんですね。ですから、今の状況ではどこか場所を提供してということとはなかなか難しいかと思えます。一緒に活動するのを少し我慢してもらって家で過ごそうという時間ですので、その時間内での子どもたちの居場所というか、家からあまり出て歩くことも制限したいくらいな時ですので、そこら辺のところは通常ではないということを少しご理解いただいでですね。かえってその子どもたちにも申し訳ないんだけど、あんまりそうやって子どもたちと一緒に集まって遊ぶよりも今は家にいる時間なんだよ、ということも申し訳ないんですけど教えていただくような方法のほうが良いのではないかなと。すみません、答えにならないようですけど、その様に今お話しを聞いて思っておりました。塩竈はまだまだちょっと今不安定ですので、手放しで遊ぶ場所を提供するのは難しいかなと思っております。申し訳ありません、あまり前向きな意見ではありません。

【議長】 ありがとうございます。確かに子どもたちが集まるということが、またいろんなリスクにはなるということだと。それもごもっともなお話だったなというふうに思います。一方で子どもたちの不安や不満がそういったところに出ていることも多分事実であって、コロナ禍ということに限定して考えないで、これからの塩竈の中高生の居場所作りという意味において何か同じ方向を向いて行けると良いのかなと。確かに今後学校だって去年のように休校になることだってあるかもしれないし。そのことはもちろんそのこととして大事だと思うんですけど、一方でそういう居場所っていう観点で少し長期的な視点でですね、この会議でも何か考えていただけると良いのかなというふうに私としては思っています。また事務局の方でもそういった視点で、確かにコロナ禍でのリスクというのももちろん含みおいた上で、何か名案があればまた次回以降ご提案いただけると良いのかなと思っております。まず今日は委員の方でそういった実情があるという、子どもたちのニーズがあるんだということの情報提供いただきましたので、それを出発点してというところで、今日のところはご意見を伺って行きたいと思えます。他にいかがですか。

【委員】 今回のコロナ禍なのでということで、心のケアについて、もう一つ全体で考えたら良いんじゃないのかなと今のお話で思ったんです。子どもたちは中学生も小学生も大変不安です。先日の地震、断水の時も子どもたちは児童館に来て不安を大変漏らしていたというか、私たち職員の水の無いこと止まっているや、食事はどうしているんだとすごく心配してくれたんです。先日、中学生が卒業式の時に来

まして、3年生も卒業式終わってから来まして、1年生2年生もちょっと顔を出したんです。卒業式で早く帰して密にならないようにしたいと学校の思いは分かるんです。でも、卒業生を待っている1、2年生が、邪魔だから帰れと言われたと大変傷ついて来ました。地震があったり断水があったり、コロナで自宅にいなさい、出歩かないでという指導があったり、マスクをしろという指導を再三受けてるんだと思います、子どもたちは。でも、その心のいろんな思いというのは誰が聞いてあげて誰が解消してあげるのかなど。もう児童館だけでは来てくれる子どもたちの話を聞いてあげられるだけなんですけど、こう抱えきれない部分があって、本当に日々切なく感じるんです。正論は正論なんです、世の中が言ってることは。でも、子どもたちはそれだけではないですよ。こういろんな思いを持って、いろんな不安を抱えてるので、そういうところのケアも皆でして行けるような取り組みを市でして行ったら良いんじゃないのかな、ということをごすごく思います。

【議長】 これもまた貴重なご意見をいただいたというふうに思っております。実はコロナ禍で子どもたちがどういうことに不安を抱えていて、たとえば私が個人的に思っていますには、特に保育園の子どもなどはずっとそうでしょうけど、大人はマスクしてますので、相手の表情を見て動くのがなかなか難しかったりとかですね。そういったところも含めて、あとそれからそこに携わってくれている先生、いわゆる支援者ですね。支援してくださってる方々にどういうふうな情報提供をすれば良いのかという辺り、たとえば研修をするとか。そういったことも大事なのかなというふうに思って今聞いていました。むしろさっきの話の繰り返しになりますけれども、子どもたちにとって先生方のような存在がいて良かったなど。また、今日このアンケートにもそういった項目ありましたけど、学校の先生とも違う、ちょっと愚痴がこぼせる家族でもない大人が、そこにいて良かったなどというふうに聞いてて思った一方で、先生方がそれを抱えきれなくなっている意見が。そういったところで子どもたち、あるいは子どもたちを取り巻いている先生方をサポートできるような仕組みというのを何か考えられないかなというのは今聞いていて思ったところでした。その辺も含めてですね、ちょっと考えていただくと良いのかなというふうに思っています。その他いかがでしょうか。事務局からは何かその他ということでご連絡ございますか。

◆その他

【事務局】事務局からは次回の会議のご案内だけさせていただきたいと思います。次回、令和3年度の1回目の会議となりまして、6月7月頃の開催となる見込みでございます。日程等が決まりましたらまたご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

【議長】ありがとうございます。その他、もし委員の先生方から特に無ければ議事としてはここで一旦終了させていただければという風に思います。ただ今、最後いただいた貴重な情報、子どもたちの現状、意見いただきましたので、それに基づいて市としてできることがあるかどうか事務局の方でも考えて、また、校長会でもシェアしていただければという風にお願ひ申し上げます。以上をもちまして令和2年度第3回の塩竈市子ども子育て会議を閉会させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

【事務局】以上をもちまして令和2年度第3回塩竈市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。